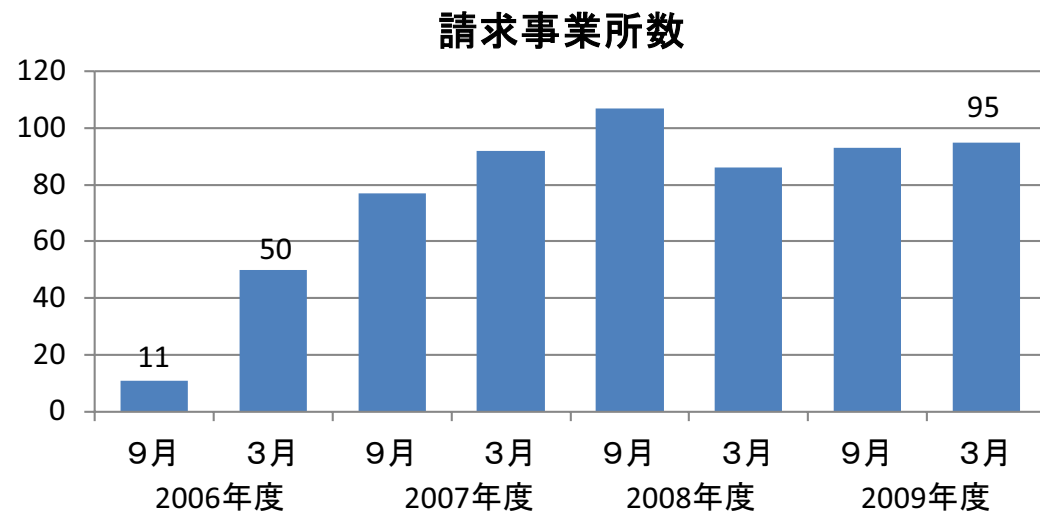
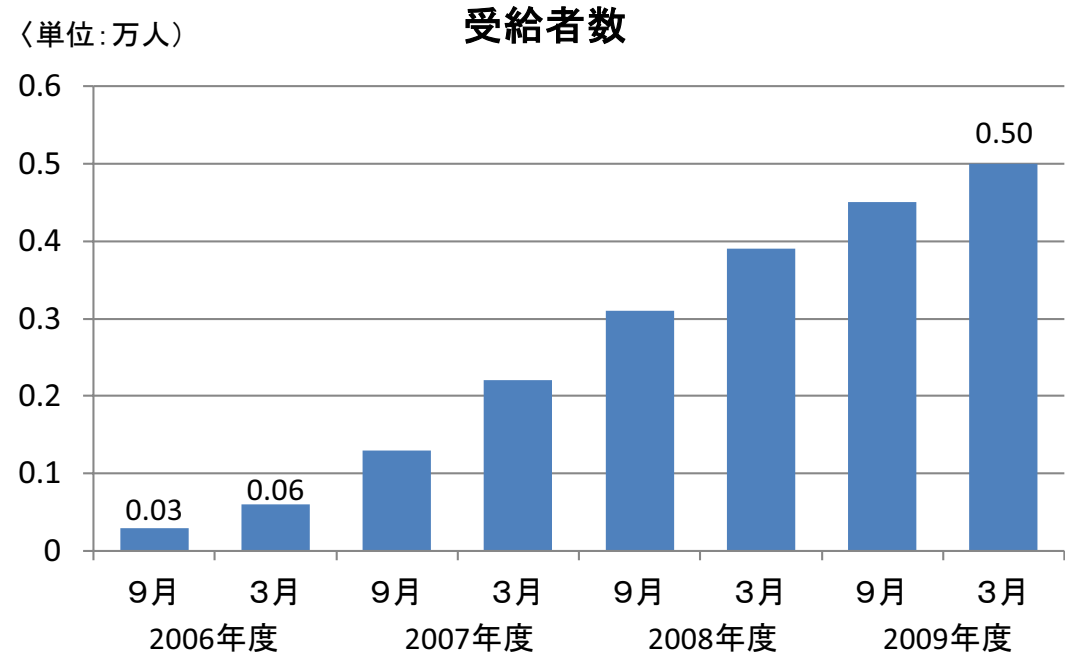
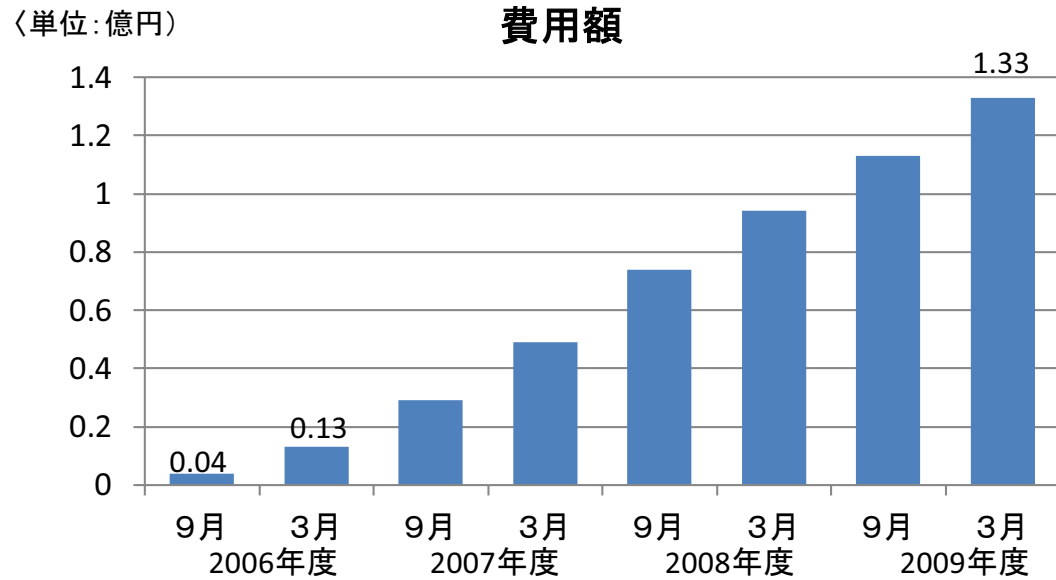


夜間対応型訪問介護の利用状況

- 夜間対応型訪問介護は2006年4月に創設されたが、2009年度末現在、利用者数が約5,000人、事業所数が95カ所にとどまっております、伸び悩んでいる。
- 現状では、重度者の在宅生活を支える上で重要であると考えられる「日中・夜間を通じた巡回型の訪問サービス」が十分に提供されていない。



注) 各月の費用額・受給者数・請求事業所数の値は、介護給付費実態調査月報より作成。
 なお、9月サービス分(10月審査分)を「9月」の部分で記載し、3月サービス分(4月審査分)を「3月」の部分で記載している。

デンマークにおける24時間地域巡回型訪問サービス

デンマークにおいては、重度者であっても可能な限り地域で生活することができるよう、介護と看護の連携を図りながら、24時間巡回型の訪問サービスが提供されている。

○デンマークにおける24時間地域巡回型訪問サービス体制の概要

区分	時間帯	家事援助、身体介護	看護
日中巡回	7:00～15:00	起床、着替え、トイレ介助、食事介助(朝食、昼食)、シャワー、昼寝誘導、そうじ、洗濯、買い物	口腔ケア、精神的ケア、カテーテル交換、ストーマ、胃ろうの管交換、胃ろうからの栄養補給、傷の手当て、投薬管理、薬の服用、血液検査とインシュリン注射、緊急訪問、緊急時対応
夜間巡回	15:00～23:00	トイレ介助、食事介助(夕食)、着替え、就寝介助	
深夜巡回	23:00～7:00	どうしても必要な医療的ケアを中心に提供	

※ 在宅ケアのチームは1人のリーダー(SSA(社会福祉・保健アシスタント))と5～6名のSSH(社会福祉・保健ヘルパー)という形で編成されるケースが多く、ここに看護師が加わって医療的ケアを必要とする者にケアを提供する。

※ SSAは社会福祉・保健ヘルパー教育の後、更に1年8ヶ月の教育を続けることが必要で、経管栄養の栄養補給やインシュリン注射も行う。

※ 介護従事者の多くは公務員である。

○人員体制の例(フレデリクスベア市の場合)

区分	時間帯	内容
日中巡回	7:00～15:00	市の3つの福祉地区をそれぞれ6つ前後の小地区(利用者250人程度)に分けて、SSA(2人)とSSH(20人前後)で構成されるチームがその小地区の一つを担当する。各福祉地区には訪問看護師グループがあり、各チームのリーダーを務める。利用者は、市全体で3,430人。
夜間巡回	15:00～23:00	各福祉地区をそれぞれ2分して、SSA(1人、リーダー)とSSHや派遣ヘルパー等(5～6人)で構成されるチームが担当する。利用者は市全体で548人。
深夜巡回	23:00～7:00	全市を統合して、2人のSSAと2人の訪問看護師が担当する。利用者は、市全体で32人。

(参考：デンマークにおける高齢者施設・住宅整備の推移)

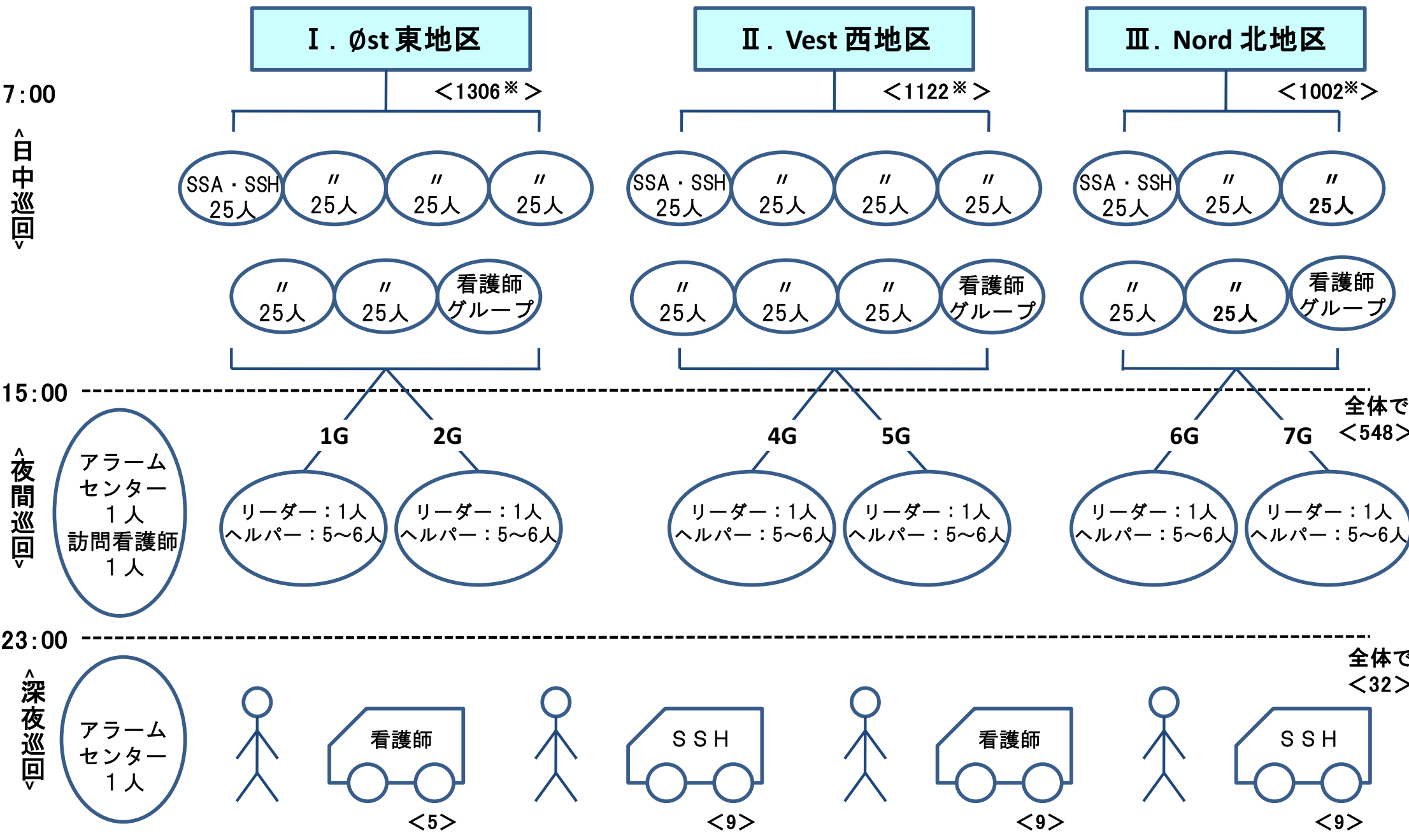
	施設系		住宅系	合計
	プライム	保護住宅	高齢者住宅	
1987年	49,088	6,595	3,356	59,039
2006年	15,424	2,870	58,292	76,586

資料出所:

- ・ 松岡洋子「デンマークの高齢者福祉と地域居住」
- ・ 医療経済研究機構「諸外国における介護施設の機能分化等に関する調査報告書」

○フレリクスベア市における在宅ケアのスタッフ体制

<> : 利用者数



* 日中巡回については、このほかに全市で1,365人の訪問看護利用者がいる

資料出所: 松岡洋子「デンマークの高齢者福祉と地域居住」

○フレデリクスベア市の夜間巡回訪問(15:30~23:00)におけるSSAの業務内容

No.	開始時間	場所	利用者の状況			巡回区分	ケア(業務)内容等
			性別・年齢	要介護度	家族構成		
	15:30	市の在宅介護課	—				ミーティング(夜間巡回の6グループが集合)
1	16:40	高齢者住宅A	女・70代	1	独居		インシュリン注射
2	16:50		女・80代	3	独居	1回目	目薬の点眼、服薬
3	17:05	高齢者住宅B	女・70代	1	夫		インシュリン注射
4	17:15		女・40代	5	独居	1回目	水分摂取、胃ろうからの栄養補給
5	17:45		男・70代	2	独居		目薬の点眼、むくみ防止ソックスの着脱
6	18:10	高齢者住宅A	女・70代	1	独居		ぜんそくの吸入
7	18:15	高層集合住宅	男・60代	1	独居		服薬、会話
	18:45	市のステーション	—				休憩、食事、ミーティング(夜間巡回の2グループが集合)
8	20:05	一般集合住宅	女・70代	3	独居		会話、服薬
	20:16	消防署	—				消防署へ緊急訪問のための鍵を取りに行く
9	20:40	一般住宅	男・80代	4	独居	緊急時対応	アラーム・電話回線の確認
10	20:55	一般集合住宅	男・90代	5	妻		傷の手当て
11	21:07	高齢者住宅A	女・80代	3	独居	2回目	目薬の点眼、服薬
12	21:15		女・70代	2	独居		目薬の点眼
13	21:25	高齢者住宅B	男・若い	4	独居		ストーマの処置
14	21:50		女・70代	1	独居		目薬の点眼、会話
15	22:10		男・70代	3	独居		目薬の点眼、服薬
16	22:20		女・40代	5	独居	2回目	水分摂取、胃ろうからの栄養補給
	22:30	市の在宅介護課	—				深夜担当の看護師へ引き継ぎ

仕事と介護の両立促進のために必要な地域や社会による支援

- 家族介護者である労働者等への調査によれば、仕事と介護の両立を促進するために必要である地域や社会による支援として、「介護に関する情報の普及啓発」、「緊急時に対応できるショートステイの拡大」、「精神面での負担軽減のための相談の充実」等を挙げる者が多い。
- 介護サービスに関しては、緊急時に対応できるショートステイや、早朝や夜間にも対応できるデイサービス、状況に応じてデイサービスからショートステイに柔軟に移行できるサービスなど、必要な時に柔軟に受けられる介護サービスが必要であるという声が多い。

仕事と介護の両立促進のために必要な地域や社会による支援(複数回答)

